

令和3年4月1日付け採用  
高知県公立学校教員採用候補者選考審査  
筆記審査(専門教養)

中学校 国語 高等学校 国語

受審番号		氏名	
------	--	----	--

**【注意事項】**

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙(マークシート)は2枚あります。切り離さないでください。

- 3 解答用紙(マークシート)は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
  - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

		受 審 番 号				
万	千	百	十	一		
1	0	0	0	0	0	
2	0	1	1	1	1	
3	0	1	2	2	2	
4	0	3	3	3	3	
5	0	4	4	4	4	
6	0	5	5	5	5	

記入例

(受審番号12345の場合)

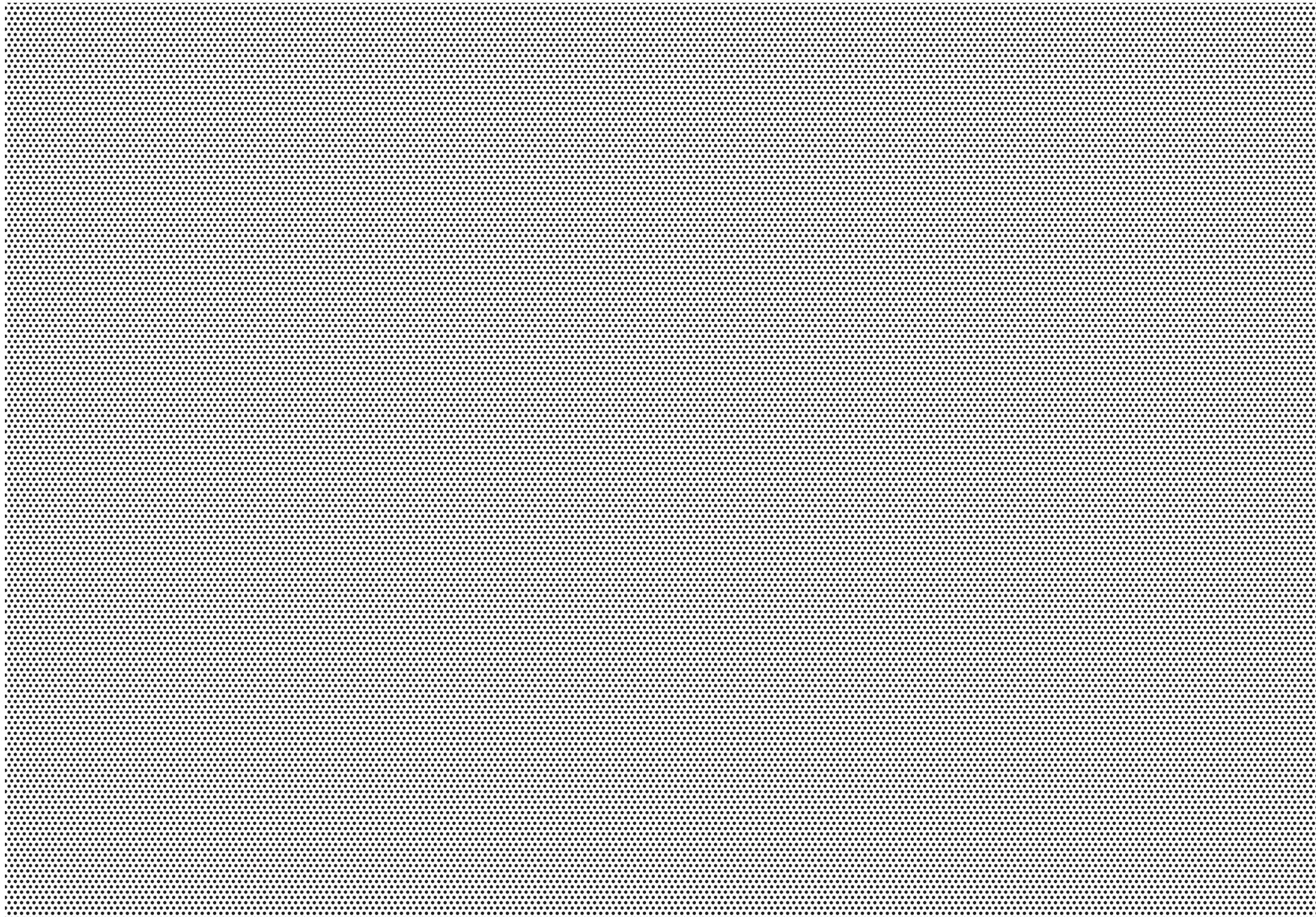
- 4 解答は、解答用紙(マークシート)の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の(例)のように**アの解答欄の** b をマークしてください。

(例)

ア	<b>a</b>	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	+
---	----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 5 選択問題は、受審する校種の問題についてマークしてください。
- 6 筆記審査(専門教養)が終了した後、解答用紙(マークシート)のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



第1問 次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 十年ぶりに訪れた故郷はすっかり昔とは変わっていて、隔世のカンを禁じ得なかつた。ア

- a 大事な会議で初歩的な読み間違いをし、カンガンの至りだった。
- b この地区では、祭りの最後に餅まきをするのがカンシユウとなっている。
- c 正月の休みで、鮮魚市場もすっかりカンサンとしている。
- d 自らが決断したことならば、失敗してもカンジュしなればならない。
- e 英語の得意な友人にカンカされて、来月から英会話を習うことになった。

(2) センキョウシとして異国に赴く。

イ

- a 以前、長野で冬季五輪の開会がセンゲンされたことがあった。
- b 最終まで残ったものの、代表メンバーのセンに漏れてしまった。
- c 社長にセンケンの明があったため、会社が大きく発展した。
- d 状況が思わしくないため、センセンを縮小し防御に徹する。
- e 何年もかけて開発した製品で、ようやくセンバイ特許がとれた。

(3) この言葉をコウギに解釈すると、その事象もあてはまるようだ。

ウ

- a 彼のためには、これまでも何かとベンギを図ってきた。
- b 昨日、おごそかに姉の結婚のギが執り行われた。
- c 総会で、ギチヨウが開会の挨拶を行った。
- d 社会人としてのギムは、きちんと果たすべきだ。
- e 大事な場面でギダを打って、走者を進塁させる。

(4) 彼は大きな成功を収めたことよつてグウゾウ化された。

エ

- a 転職したら、前の会社よりもタイグウが良くなった。
- b イギリス行き飛行機で、グウゼン、彼と一緒にになった。
- c 新年に皇居に参賀に赴き、トウグウ御所も見てきた。
- d そのグウワには、生きる上で大切な教訓が含まれている。
- e 私の座右の銘は、イチグウを照らすという言葉だ。

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 読み方の間違っている熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。 オ

- a 頒布 はんぷ      b 正鵠 せいこく      c 邂逅 かいこう      d 妄執 もうしつ      e 収斂 しゅうれん

(2) 「考」という字を構成する部首「考」の名称として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 カ

- a ひとあし      b あみがしら      c おいかんむり      d かくしがまえ  
e ふしづくり

3 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 四字熟語とその意味の組み合わせとして適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 キ

- a 一衣帯水 ↓ 一本の川が帯のように続くように、とても長い時間が経過すること。  
b 偕老同穴 ↓ 生きては共に老い、死んでは同じ穴に葬られることから、夫婦の仲が良いこと。  
c 剛毅朴訥 ↓ 意志が強く、素朴で言葉に飾り気がないこと。  
d 有為転変 ↓ 世の中の移り変わりが激しく、万物が変化してやまないこと。  
e 荒唐無稽 ↓ 現実離れしていて、根も葉もないでたらめなこと。

(2) 慣用句の使い方として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 専務は、社長になるチャンスを爪を研いで待ち構えている。  
b あまりに高額の買い物をしてしまったため、借金で首が回らない。  
c 普段からあまり親しくないのに、彼には気が置けない。  
d あれだけ一生懸命働いたのに、雀の涙ほどの退職金しか出なかった。  
e 会議で誰も発言しなかったので、まず私が口を切った。

(3) 故事成語とその説明の組み合わせとして適切でないものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

ケ

- a 曲学阿世  
↓ 真理を曲げて、権力者にこびたり、世間へつらったりして人気をとろうとする
- b 燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや  
↓ 小人物には、大人物の遠大な心はわかるものではないということ。
- c 螢雪の功  
↓ 螢の光や雪明かりを灯火の代わりにするような苦勞のもと学問をし、立派になること。
- d 青は藍より出でて藍より青し  
↓ 弟子が師匠よりも優れることのたとえ。
- e 屋下に屋を架す  
↓ 屋根の下にもう一つ屋根を作るような、慎重にも慎重を期すことのたとえ。

4 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次にあげる文に含まれる活用した「れる・られる」について、自発の意味であるものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

コ

- a 年配の方が自転車に乗って、よく買い物に来られる。
- b 故郷で一人暮らしをしている母のことが案じられる。
- c 小さいころ、よく祖母にその土地に伝わる昔話を聞かされた。
- d クラスのみんなの信頼が得られれば、文化祭は成功したも同然だ。
- e 彼のような実直な人が言う話なら、初めて聞くことでも信じられる。

(2) 次にあげる文に含まれる「から」について、原因・理由の用法で用いられている格助詞であるものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

サ

- a 両親は先週から旅行に行っています。
- b 雨が降るから体育祭は中止だ。
- c 暗くなってきたから家に帰ろう。
- d 試験の不安からよく眠れなかった。
- e 昨日外国から帰国したばかりです。

5 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の説明に該当する作品名を、あとのa～eの中から一つ選びなさい。 シ

平安時代後期に成立した日記文学で、作者は菅原孝標女。作者の少女時代から約四十年間の人生を回想してつづった女性の内省的な生活記録である。物語にあこがれていた少女が十三歳の時、父の任地上総国を旅立ち、上京するところから晩年に至るまでの内容が語られている。

- a 讃岐典侍日記      b 更級日記      c 十六夜日記  
d 蜻蛉日記      e 和泉式部日記

(2) 次の説明に該当する歌人名を、あとのa～eの中から一つ選びなさい。 ス

旅と酒と自然を読んだ彷徨の歌人であり、大学卒業と同じ年に出版した第一歌集『海の声』、青春の抒情歌として名高い第三歌集『別離』等が有名である。

- a 若山牧水      b 窪田空穂      c 佐々木信綱      d 島木赤彦  
e 会津八一

(3) 平安時代の作品に関する説明として誤っているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 セ

- a 『大鏡』は、平安後期、一一〇〇年前後に成立したと考えられる、作者未詳の歴史物語である。藤原氏による摂関政治の裏面史を批判的に描きだした。また「鏡物」の先駆けとして、のちの歴史物語に大きな影響を与えた。
- b 『竹取物語』は、平安前期に成立したと考えられる、現存最古の作り物語である。内容は「かぐや姫の生い立ち」、「五人の貴公子の求婚と失敗」、「帝の求婚とかぐや姫の昇天」という三つの部分に分けることができる。
- c 『源氏物語』は、平安中期に成立した、紫式部による大長編物語である。「桐壺」の巻から「夢浮橋」の巻に至る五十四帖からなる。日本の古典文学の最高峰とされ、これ以降の古典作品にも大きな影響を与えた。
- d 『伊勢物語』は、平安前期に成立したと考えられる、作者未詳の歌物語で、各章段は、散文と和歌からなる。現存する最古の歌物語で、『源氏物語』をはじめとして、中世・近世の演劇・詩歌などにまで影響を与えた。
- e 『今昔物語集』は、平安後期に成立した編者未詳の説話集である。収録千余話すべてが「今は昔」で書き起こされている。十項目の徳目を主題に立て、和漢の教訓的説話を各項目の例話として幼少者向けに編成したものである。

(4) 大正時代の文学の流れに関する説明として誤っているものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

ソ

- a 明治末に創刊された「白樺」からは、武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎らが文壇に登場した。武者小路は『お目出たき人』『友情』、志賀は『和解』『暗夜行路』、有島は『カインの末裔』『或る女』などの小説が有名である。
- b 自然主義に対立する立場をとる余裕派の文豪として名高い夏目漱石は、大正期には『こころ』『道草』『明暗』などの作品を発表した。一方で、歴史小説を多く発表した森鷗外は、同時期に『山椒大夫』『高瀬舟』などの作品を著した。
- c 明治末期から大正初期にかけての詩壇を代表したのは北原白秋と三木露風であるが、彼らのあとを受けて口語自由詩を確立し近代詩を完成させたのが、高村光太郎と萩原朔太郎である。光太郎は『道程』を、朔太郎は『春と修羅』を発表した。
- d 大正五年に創刊された第四次「新思潮」によった芥川龍之介、久米正雄、菊池寛らは新思潮派と呼ばれ、理知的な作風を残した。中でも芥川は、古典を素材にした『羅生門』『鼻』『地獄変』『枯野抄』などの優れた短編を多く発表した。
- e 大正時代には、プロレタリア文学と新感覚派の文学運動とが展開され、関東大震災後には、横光利一が『日輪』『蠅』を発表した。また、横光とともに「文芸時代」を創刊した川端康成は、『伊豆の踊子』を発表し、清新な感性が注目された。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(河野哲也 『人は語り続けるとき、考えていない 対話と思考の哲学』による)

1 文章中の  に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

- a しかしながら
- b すなわち
- c このようにして
- d そのうえ
- e いずれにしても

2 傍線部②「啓蒙」と同じ組み立てで構成されている熟語を、次の a～e の中から一つ選びなさい。

- a 思考
- b 鎮火
- c 往復
- d 切望
- e 雷鳴

3 傍線部③「入ってはならない隘路に踏み込んでしまった」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

- a 哲学の学派が没交渉となり、専門知識の集積が必要になったということ。
- b 哲学が学問として精緻になり、市民からの視点と離れたものになったということ。
- c 哲学の学派が没交渉となり、二つの現代哲学の潮流が生み出されたということ。
- d 哲学の学派が没交渉となり、教養のある人間が少なくなってしまったということ。
- e 哲学が学問として精緻になり、啓蒙主義の理解に専門知識が必要になったということ。

4 傍線部④「重大な、失うべきではない知的な営み」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

- a 様々な人の書簡集を読み応えのある哲学的な対話であることとみなすこと。
- b 教養のある一般人が著名な哲学者と対話を行っていくということ。
- c 一般人が他者との対話を行いながら真理を見出していくということ。
- d 自然科学の実証主義的な研究手続さを定着させるということ。
- e 一八世紀までの哲学と二〇世紀以降の哲学を区別して考えるということ。

5 文章中の  ・  に当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- a ⑤ しか ⑥ せいぜい  
 b ⑤ さえ ⑥ とうてい  
 c ⑤ しか ⑥ ようやく  
 d ⑤ すら ⑥ とうてい  
 e ⑤ さえ ⑥ せいぜい

6 傍線部⑦「対話的な全体性とはむしろ個人の差異化を意味する」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- a 対話的な全体性は、分断された知に基づいて人間の独立性を確立するものだということ。  
 b 対話的な全体性は、それぞれの自由な考えを保証することを目的とするものだということ。  
 c 対話的な全体性は、知の全体性に多様性を生み出すことができるものだということ。  
 d 対話的な全体性は、異なる見解同士の対話による人間のつながりに基づくものだということ。  
 e 対話的な全体性は、それぞれの人間が持つテーマから共通性を見出すものだということ。

7 傍線部⑧「『科』学」の文章中における意味として、最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- a 世界をまとめていくもの。  
 b 真理を発見していくもの。  
 c 対象を区分していくもの。  
 d 生活を便利にしていくもの。  
 e 実験で実証していくもの。

8 傍線部⑨「哲学における対話の伝統は、渾沌を蘇らせるためのものである」とあるが、その内容として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 古来より続く哲学の対話は、近代の科学によって築き上げられた専門性を取り戻すためにあるということ。
- b 古来より続く哲学の対話は、荘子の中で語られている渾沌という人物を再評価するためにあるということ。
- c 古来より続く哲学の対話は、渾沌の逸話のように科学が知を分断していることを明らかにするためにあるということ。
- d 古来より続く哲学の対話は、分類的な秩序を与えると全体の命が失われてしまうことを示すためにあるということ。
- e 古来より続く哲学の対話は、専門化によって生じた人間や社会の様々な分断を克服するためにあるということ。

9 本文の文章構成についての説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 哲学の知のあり方とその変容について言及してから、現代の哲学の問題点を指摘し、最後に、それを踏まえた筆者の主張を、比喩的な話を交えながら述べている。
- b 哲学と科学の関係について詳述し、哲学の本質が対話にあることを述べてから、対話の消失によって起こる社会の問題点と対応方法について説明している。
- c 哲学が他の学問と異なる点を述べた後、哲学の優れた特徴が失われる過程を歴史的な流れに沿って説明し、最後に比喩的な話を交えながら、哲学の復権を主張している。
- d 哲学に関わる専門性と一般性の問題に言及してから、哲学が難解になった理由を述べ、最後に平易な哲学に戻す方法として、対話の重要性に触れている。
- e 哲学のあり方に関わる歴史的な変化を二つの視点から述べた上で、両者の共通点と相違点を詳述し、最後に比喩的な話を交えながら、筆者の主張を述べている。

10 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

コ

- a 哲学の知のあり方と科学の知のあり方は、根本的に相容れないものである。
- b 哲学における対話の消失は、近代的な知の編成に巻き込まれたことと関係する。
- c 対話によって復元される全体性は、専門性と人間性を結びつけることができる。
- d 哲学は、啓蒙主義の時代に、教養のある一般人との対話を通して発展してきた。
- e 平易な言葉で説明することが、哲学にとって最も重要なことである。

第3問 次の文章は『建礼門院右京大夫集』中の一節で、作者が建礼門院を大原の寂光院にたずねたときの感慨を述べている部分である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

女院、大原におはしますとばかりは聞きまゐらすれど、さるべき人に知られでは参るべきやうもなかりしを、<sup>①</sup>深き心をしるべにて、<sup>②</sup>わりなくて尋ねまゐるに、やうやう近づくままに、山道のけしきより、まづ涙は先立ちて言ふ方なきに、御庵のさま、御住まひ、ことがら、すべて目も当てられず。昔の御有様<sup>③</sup>見まゐらせざらむだに、大方のことがら、いかがことも<sup>④</sup>なのめならむ。A、夢うつつとも言ふ方なし。秋深き山おろし、近き梢に響きあひて、懸樋の水のおとづれ、鹿の声、虫の音、いづくものことなれど、例なき悲しさなり。<sup>⑤</sup>都ぞ春の錦を裁ち重ねて候ひし人々、六十余人ありしかど、見忘るるさまに衰へはてたる墨染めの姿して、僅かに三四人ばかりぞ候はる。その人々にも、「さてもや」とばかりぞ、我も人も言ひ出でたりし、むせぶ涙におぼはれて、すべて言も続けられず。

B 仰ぎ見し昔の雲の上の月かかる深山の影ぞかなしき

花のほひ、月の光にたとへても、一方には飽かざりし御面影、<sup>⑥</sup>あらぬかとのみただらるるに、かかる御事を見ながら、何の思ひ出なき都へとて、<sup>⑦</sup>されば何とて帰るらむと、うとましく心憂し。

山深くとどめおきつるわが心<sup>⑦</sup>やがて住むべきしるべとをなれ

(『建礼門院右京大夫集』による)

女院Ⅱ建礼門院徳子。平清盛の女で安徳天皇の母。  
さるべき人Ⅱ女院に縁のある人物。  
あらぬかとのみⅡ別人ではないかとばかり。

1 傍線部②「わりなくて」、④「なのめならむ」、⑦「やがて」のここでの意味として最も適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

②「わりなくて」

ア

- a 無理に
- b ひっそりと
- c 我慢して
- d 短い時間
- e 少しずつ

④「なのめならむ」

イ

- a 注意深くしよう
- b 再考してほしい
- c いい加減に思うだろうか
- d 熟慮しているだろうか
- e つらく思うに違いない

⑦「やがて」

ウ

- a そのうちに
- b すぐさま
- c きつと
- d 安心して
- e そのまま

2 傍線部①「深き心をしるべにて」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 仏の慈悲の深さだけを私の心の心よりどころとして
- b 女院を深くお慕い申し上げるわが心をたよりどころとして
- c 私を思ってくださる深いお気持ちをよりどころにして
- d 仏に帰依する私の心の深さをたよりどころとして
- e 世をはかなむ女院の隠遁生活をよりどころとして

3 傍線部③「見まゐらせざらむだに」の説明として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 動詞＋動詞＋助動詞＋動詞＋副助詞
- b 動詞＋補助動詞＋動詞＋助動詞＋接続助詞
- c 動詞＋動詞＋助動詞＋接続助詞
- d 動詞＋補助動詞＋助動詞＋助動詞＋副助詞
- e 動詞＋動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋接続助詞

4 空欄部Aに入る言葉として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a いかでか
- b されば
- c たとへば
- d されど
- e まして

5 傍線部⑤「都ぞ春の錦を裁ち重ねて候ひし人々」とは、どのような人々のことか。その説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 安徳天皇のお側近くで、数々のきらびやかな歌を詠んでいた歌人たち
- b 女院のお側近くで、美しい着物を重ねてお仕えし、はべっていた女房たち
- c 安徳天皇のお側近くで、美しい自然に囲まれてお仕えしていた侍従たち
- d 女院のお側近くで、我が世の春を謳歌していた平家一門の公卿たち
- e 安徳天皇のお側近くで、高級な着物を着飾っていた一門の武将たち

6 傍線部⑥「うとましく心憂し」とあるが、作者は何についてこのように述べているのか。その内容として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 都に帰る自分自身
- b 春の錦に象徴される都
- c 零落した平家一門
- d 移ろいゆく景色
- e 盛者必衰というさだめ

7 傍線部Bの和歌「仰ぎ見し昔の雲の上の月かかる深山の影ぞかなしき」における「雲の上」と「月」は比喩表現になっている。これらが例えているものの組み合わせとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 「雲の上」…女院 「月」…女房
- b 「雲の上」…安徳天皇 「月」…平家一門
- c 「雲の上」…平家一門 「月」…女房
- d 「雲の上」…宮中 「月」…女院
- e 「雲の上」…安徳天皇 「月」…右京大夫

8

本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

コ
---

- a 作者は、大原の寂光院に住まう建礼門院のわびしい生活を見て、亡き安徳天皇の御霊を弔うだけの女院の日常に、世の中の無常を感じ取っている。
- b 作者は、あれほど権勢を誇った平家一門が今は滅びてしまったことを思い出し、盛者必衰のことわりを寂光院の生活と重ね合わせている。
- c 作者は、女院の大原での暮らしぶりを見るにつけ、わびしい今が夢なのか、華やかにりし昔が夢なのか、歌を詠み感慨にふけている。
- d 作者は、建礼門院の在りし日を懐かしく思い出しながら、年老いた今はすっかり別人のように容姿が衰えてしまったことを嘆かわしく見ている。
- e 作者は、鹿の声や虫の音に囲まれて暮らしている建礼門院の様子を見て、ともに女院に拝謁したお供の女房たちと涙を流して悲しんでいる。

第4問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、訓点を省いた部分がある。

楚王使景鯉<sup>ラシテ</sup>如秦<sup>ニ</sup>。客謂<sup>ツテ</sup>秦王曰<sup>ク</sup>、景鯉<sup>ハ</sup>、楚王所<sup>ナリ</sup>甚愛<sup>スル</sup>。王不如<sup>レ</sup>留<sup>メテ</sup>之以<sup>テ</sup>市<sup>ニ</sup>。地<sup>ヲ</sup>。楚王聽<sup>カバ</sup>、則不<sup>レ</sup>用<sup>シテ</sup>兵<sup>ヲ</sup>而得<sup>レ</sup>地<sup>ヲ</sup>。楚王不<sup>レ</sup>聽<sup>カカ</sup>、則殺<sup>シテ</sup>景鯉<sup>ヲ</sup>、<sup>①</sup>更與不如景鯉者市。是<sup>レ</sup>便計<sup>②</sup>也。秦王乃留<sup>ム</sup>景鯉<sup>ヲ</sup>。景鯉使<sup>メテ</sup>人<sup>ヲシテ</sup>說<sup>カ</sup>秦王曰<sup>ク</sup>、臣<sup>③</sup>見<sup>レ</sup>王之權輕<sup>ニ</sup>天下<sup>一</sup>、而地不<sup>レ</sup>可得也。<sup>④</sup>臣之來使<sup>ヒスル</sup>也、聞<sup>ケリ</sup>皆且<sup>ニ</sup>割<sup>レ</sup>地<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>事<sup>ヘント</sup>。<sup>⑤</sup>所以然<sup>一</sup>者、以<sup>テ</sup>秦<sup>ノ</sup>與<sup>レ</sup>楚爲<sup>ニ</sup>昆弟<sup>ノ</sup>國<sup>一</sup>。今大王留<sup>ム</sup>臣<sup>ヲ</sup>。是示<sup>ス</sup>天下<sup>ニ</sup>無<sup>キ</sup>楚也。齊魏有<sup>マ</sup>何重<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>孤<sup>ノ</sup>國<sup>一</sup>也。楚知<sup>ラバ</sup>秦之孤<sup>ナル</sup>、不<sup>レ</sup>與<sup>レ</sup>地<sup>ヲ</sup>、而外結<sup>ビテ</sup>交<sup>ハリテ</sup>以<sup>テ</sup>圖<sup>ラン</sup>。則<sup>チ</sup>社稷<sup>ニ</sup>必危<sup>フ</sup>。不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>出<sup>サンニ</sup>臣<sup>ヲ</sup>。秦王乃出<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。

(『戦国策』による)

市||あきなう。取引をする。  
楚・秦・齊・魏||国名。

1 傍線部①「更與不如景鯉者市」の書き下し文として適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ア

- a 更<sup>さら</sup>に景鯉に與<sup>あた</sup>へざるがごときは市ふ者なり。
- b 更<sup>あらた</sup>めて景鯉に如かざる者と市へ。
- c 更<sup>か</sup>へつて景鯉に如かざる者に與へ市ふ。
- d 更に景鯉と市ふ者には與へざるがごとし。
- e 更めて景鯉に與ふる者は市はざるがごとし。

2 傍線部②「便計」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

イ

- a 巧妙なはかりごと
- b 素早いはかりごと
- c 実行しやすいはかりごと
- d 油断させるはかりごと
- e 取り入るはかりごと

3 傍線部③「見<sub>下</sub>王之權輕<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>、而地不<sub>レ</sub>可得也」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a 秦王の權威で天下の諸侯を軽んじすぎると、かえって他国の反乱を招くのではないだろうか。
- b 秦王の權威が天下の諸侯に軽んぜられますので、土地をむやみに望んではならないと思われます。
- c 秦王の權威が天下の諸侯に軽んぜられすぎると、秦の領土が他国に奪われるのではないかと思われます。
- d 秦王の權威が天下の諸侯に軽んぜられ、恐らくご所望の土地は手に入らないと思われます。
- e 秦王の權威で天下の諸侯を軽んじると、割讓されるべき土地すら手に入らなくなるのではないだろうか。

4 傍線部④「臣」とは誰のことか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 齊や魏の使い
- b 景鯉が秦王を説得するように頼んだ人
- c 客
- d 秦王の側近
- e 景鯉

5 空欄部AおよびBに入る国名の組み合わせとして正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- |   |      |      |
|---|------|------|
| a | A 秦  | B 齊魏 |
| b | A 齊魏 | B 楚  |
| c | A 齊魏 | B 秦  |
| d | A 楚  | B 齊魏 |
| e | A 楚  | B 秦  |

6 傍線部⑤「所以然者」に該当する部分は、本文中のどこになるか。該当する部分として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- |   |         |
|---|---------|
| a | 景鯉楚王所甚愛 |
| b | 不用兵而得地  |
| c | 秦王乃留景鯉  |
| d | 秦與楚爲昆弟國 |
| e | 示天下無楚也  |

7 傍線部⑥「社稷」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- |   |        |
|---|--------|
| a | 国家     |
| b | 臣下の財産  |
| c | 国王の権威  |
| d | 法律     |
| e | 他国との同盟 |

8 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 秦王は、景鯉が楚王の寵臣であるがゆえに、これを人質として、秦に有利な条件で楚の国と講和を結ぶことができた。
- b 楚王は、景鯉を秦に派遣し、楚と同盟をくむことが秦にとって安全であることを説き明させ、楚に対する圧力を軽減することに成功した。
- c 秦の客は、景鯉は将来、秦に災いをもたらす恐れがあるので、むしろ、その命を奪うことが秦の安泰につながることを上奏した。
- d 秦王は、客の上奏と景鯉の言い分とを熟慮し、どちらの説を採ることが秦の将来にとって最も良いかを考えた結果、客の進言に従った。
- e 景鯉は、秦が楚を疎かにするようなふるまいを見せれば、秦は孤立し、楚をかえって他国側に走らせ、同盟を結ばせることになりかねないと諭した。

(選択問題 中学校)

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)と(2)は、平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領国語における「第2 各学年の目標及び内容」の第2学年の「1 目標」及び「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に示されている事柄である。ア イ に該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、ア、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

- a 社会生活における多様な考えや価値観を想定しながら
- b 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け
- c 社会生活に必要な国語についての理解を深め
- d 社会生活に求められる言語能力の向上を図り
- e 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め

(2) 第2の各学年の内容の「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間15～25単位時間程度、第3学年では年間10～20単位時間程度を配当すること。その際、イ などして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

- a 「B書くこと」や「C読むこと」との連携を図る
- b 学校図書館などの積極的な活用をすすめる
- c 音声言語のための教材を積極的に活用する
- d ICT機器を積極的に用いる
- e 情報通信ネットワークを活用する機会を設ける

2 次の(1)～(3)は、『中学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十九年七月)に示されている「内容」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、第3学年の内容2〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くことの「言語活動例」に関する解説の一部である。文章中の **ウ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

第3学年では、生徒の視野が一層広がるように、書く対象に対する書き手の主観だけでなく、**ウ** 活動を例示している。

- a 客観的に物事を捉えながら自分の考えを書く
- b 目的に応じた表現をしているか確かめながら自分の考えを書く
- c 信頼性の高い情報を根拠として自分の考えを書く
- d 対象に対して客観的に批評を加えながら自分の考えを書く
- e 具体的な事例を根拠にして自分の考えを書く

- (2) 次の文は、第2学年の内容1〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項「情報と情報との関係」に関する解説の一部である。文章中の **エ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

第1学年のAを受けて、意見と根拠の関係に加え、具体と抽象の関係について理解することを示している。第1学年の学習を踏まえて、意見と根拠との関係を理解するとともに、**エ** ことが求められる。具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や表象に共通する要素を抜き出して示したものである。例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素を抽出してまとめる際など、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。

- a 具体と抽象との関係を理解し、自分で判断したり考えをまとめたりする
- b それらがどのように結び付いているかを捉えたり整理したりする
- c 自分の意見を述べたりする際には、意見を支える根拠を明らかにする
- d 判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解する
- e 意見を裏付ける根拠の在り方を理解しながら自分の思考を明確にする

- (3) 次の文は、第1学年の内容2〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこととの「話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する解説の一部である。文章中の **オ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

話題や展開を捉えながら話し合うためには、**オ** といった、目指している到達点を常に意識する必要がある。多くの発言によって考えを広げていく段階や、出された発言の内容を整理しながら考えをまとめる段階など、話合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることが求められる。

- a その場の状況を捉えて話し合っているか
- b 何についてどのような目的で話し合っているか
- c 合意形成に向けてどのように話し合っているか
- d 互いの立場や考えを尊重して話し合っているか
- e 互いの考えを結び付けて、建設的に話し合っているか

(選択問題 高等学校)

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)は、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領国語における「第1 現代の国語」の「1 目標」、「第2 言語文化」の「1 目標」及び「第3 論理国語」の「3 内容の取扱い」に示されている事柄である。ア～ウに該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、(1)は「現代の国語」、(2)は「言語文化」、(3)は「論理国語」に示されている事柄である。

(1) ア 国語の知識や技能を身に付けるようにする。

- a 日常生活を営む際に求められる
- b 社会生活を営む上で必要になる
- c 実社会に必要な
- d 現代社会に求められる
- e 情報化社会で必要になる

(2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、イことができるようにする。

- a 我が国の言語文化に対する理解を深める
- b 言葉がもつ価値への認識を深める
- c 言葉を通して他者や社会に関わろうとする
- d 他者との関わりの中で伝え合う力を高める
- e 我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつ

(3) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。

ア 「A書くこと」に関する指導については、50～60単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

イ 「B読むこと」に関する指導については、ウ単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

a	40	～	50
b	50	～	60
c	60	～	70
d	70	～	80
e	80	～	90

2 次の(1)と(2)は、『高等学校学習指導要領解説 国語編』(平成三十年七月)に示されている「第1章 総説」の「第4節 国語科の内容」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の文は、「2〔知識及び技能〕の内容」(2)情報の扱い方に関する事項の「情報と情報との関係」に関する解説の一部である。文章中の **エ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

各領域における「思考力、判断力、表現力等」を育成する上では、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解したり、 **エ** 話や文章で表現したりすることが重要になる。

- a 自分のもつ情報と情報との関係を明確にして
- b 主張と論拠など情報と情報との関係を明らかにしながら
- c 情報の妥当性や信頼性について吟味しながら
- d 取り出した情報の重要度や抽象度などに検討を加えながら
- e 個別の情報と一般化された情報との関係に留意して

(2) 次の文は、「3〔思考力、判断力、表現力等〕の内容」の「A 話すこと・聞くこと」の「○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有(聞くこと)」に関する解説の一部である。文章中の **オ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

聞き取ったことを比較したり評価したりするためには、 **オ** ことが前提となる。そのため、「話題の設定、情報の収集」の段階から、聞き手としてどのような立場に立ち、何を聞こうとするのかを意識することなどが重要である。

- a 自分の立場や考え方との違いを明らかにしておく
- b 話題について理解し、自分の考えをまとめていく
- c 話を聞く際の視点を明確にしておく
- d 聞き手自身が話題に対して一定の立場や考えをもっている
- e 論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞く



